

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	有限会社 ベターライフ・U
事業所名	グループホーム四葉のクローバー
所在地	松山市石風呂町甲1014番1
自己評価作成日	平成22年6月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・『健康・愛情・幸福・希望』の理念の下、全職員は利用者様・御家族・職員の『安全・安心・安らぎ』のある生活を目指し取り組んでいる。
 ・『その人らしさ』を見失わないように、一人ひとりの有する力・出来る事を見極め、個別ケア・自立支援に取り組み、生活の中で利用者様の笑顔が増えるように努めている。毎日の体操や散歩など健康維持に努めている。
 ・同系列のGHの畑で栽培された無農薬の新鮮な旬の野菜を食べて頂いている。
 ・職員は、外部研修に積極的に参加し、質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●運営推進会議は「ホームでの利用者の生活を知っていただくよい機会」と捉え、ご家族も毎回違った方にご参加いただけるよう声をかけておられる。会議時、地域の方のお誘いもあり、地域行事に参加されたことがきっかけで、地域の清掃活動に利用者とともに参加するようになった。近隣の方も会議へ参加いただけるよう呼びかけに、職員が個別に訪問されているところである。
 ●ほとんど毎日、午前中は近隣の公園まで等、散歩されている。車いすを利用されている方も「外に触れる機会を作る」ことに努めておられ、一緒に散歩に出かけておられる。毎月、外出計画を立て、お花見、イチゴ狩り等、季節を感じることができるような外出を楽しまれている。皆で椿祭りに出かけた際には「懐かしい」と喜ばれる利用者もあったようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム四葉のクローバー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 濱崎 真由美

評価完了日 平成22年 6月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念である『健康・愛情・幸福・希望』と基本方針を掲示した理念カードを全職員が常時携帯し、統一した支援につながるよう日々努めている。就職初日に、理念についての説明を行い理念カードを手渡し、チームの一員である事の理解を促している。 (外部評価) 利用者、ご家族、職員の「幸福・愛情・健康・希望」を支援することとともに、地域とともに、取り組んでいくことを目指しておられる。法人全体の理念をカードにして、各自が携帯されており、日々確認できるようになっている。ユニットごとに毎年目標を決めておられ、今年1階は「言葉づかいに気をつけよう」2階は「服薬ミスをなくそう」と掲げて取り組まれていた。職員個々のケアの目標も立てて、各ユニット入口に写真とともに掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や庭掃除の際には、先に挨拶をするよう心掛けている。サロンや地域の行事・祭り等に声を掛けて頂き、利用者様と参加する機会も年々増えてきている。その中で、顔見知りの関係が出来つつある。短い時間ではあったが、利用者様と一緒に地域の清掃活動に参加する事が出来た。 (外部評価) 地域包括支援センターの協力を得て、センターの行事に利用者とともに参加されている。「すみれ野WAIWAI講座」では、認知症のお年寄りをテーマにした紙芝居の後で、地域の子供たちの前で、管理者が事業所のことや認知症についてお話しされた。近隣団地の自治会長の方からのお誘いで、松山祭りの野球拳おどりの連の仲間として職員が参加されており、踊りの練習等で地域の方と顔見知りになり、日々の散歩の途中に声をかけていただくことも増えたようである。「行方不明搜索訓練」の際には、近所のコンビニや会社にも協力をお願いに回られた。	地域包括支援センターや自治会の協力のもと、地域との交流を深めておられるが、さらに、事業所からの働きかけで地域とのつながりを深められるような取り組みも、すすめていかれてはどうだろうか。職員は、地域の方々に向けて「認知症の理解を深めるような勉強会を企画していきたい」と話しておられた。又、管理者は、行く行くは、災害時等の協力体制を作っていきたいと話しておられた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 予定していた、地域に対しての認知症の学習会や相談会は実行に至っていない。まずは、防災・搜索訓練等に見学に参加頂き、認知症を理解していただきたい。と考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月毎の開催が定着している。利用者様の生活状況や行事報告等行っている。参加された御家族からは御意見・御要望を伺う事ができ、サービス向上に活かしている。利用者様も参加され、ホーム内の生活の様子や行事の感想・意見など発言される事もある。地域住民の方から地域行事の案内を頂く事もあり、地域との交流につながっている。	
			(外部評価)	
			会議は「ホームでの利用者の生活を知っていただくよい機会」と捉え、ご家族も毎回違った方にご参加いただけるよう声をかけておられる。会議時、地域の方のお誘いもあり、地域行事に参加されたことがきっかけで、地域の清掃活動に利用者とともに参加するようになった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			施設長は密に連絡を取り、協力関係を築いている。職員は、GH連絡会・運営推進会議を通して、包括や市社協の担当者とも顔見知りの関係になり、連携が深まるように努めている。	
			(外部評価)	
			法人代表者は、市の福祉課の担当者と連絡を取り合い、生活保護受給者の生活について相談しながら、支援に取り組まれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			職員全員が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出掛ける気配を見逃さないように、所在を確認したり職員間で声を掛け合うようにしている。玄関は常に開放している。また、言葉による拘束が無いように、職員同士が注意をしたり話し合い、早急に解決するよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			ミーティング時等で、日々のケアについて職員で話し合っておられるが、市の実地指導時に担当者から「身体拘束の知識を深める等、年1回学習会を行い、日々のケアを振り返る機会を作ってはどうか」と提案いただき、実施に向けて計画がされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修に参加し、月次ミーティング等で資料を基に話し合い勉強会を行い、防止に努めている。入浴や更衣の際に、さりげなくアザ等無いか確認している。もし認めた場合は、いつからあるのか、原因は何か遡り確認し、御家族にも報告している。言葉遣いなど気なる時は、みんなで話し合い注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 契約時など、必要に応じ施設長から説明されている。月次ミーティングで勉強する機会があり、概ね理解しているが活用できるまでは至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長・管理者が同席して、時間をかけゆっくり丁寧に説明を行い理解・納得頂いている。特に重度化や日常生活において起こりうるリスクについて詳しく説明し理解を求めている。改正時には前もって文書で通達した後、説明を行い理解頂くようにしている。疑問や不安等ある場合は、その都度説明を行い理解頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時には気軽に意見を表出して頂けるような関係作りに努めている。家族会は発足していないが、運営推進会議で利用者様・御家族共に参加頂き、御意見・御要望を頂いており運営に反映させている。また、運営推進会議議事録を全御家族に送付し内容を確認頂いている。外部に苦情等表せる場所があることは、契約書に明記し御説明している。 (外部評価) 事業所で行うクリスマス会やそうめん流し等の夏の行事時には、ご家族も招き、お話しをお聞きするよう努めておられる。ご家族から居室の温度等についてご意見をいただいた際には、職員で室温調節に気を付けるようにされた。3ヶ月に1回、ホーム便りをユニットごとに作成して、ご家族に行事の様子等を写真入りで報告されている。	以前、運営推進会議の際に、ケアについてご家族から気付いたことやご意見をいただいたこともあるようだが、現在は「ホームに任せます」と言われるご家族も多く、ご意見をいただくことは少ないようである。ご家族の声をケアサービスに反映していくためにも、事業所の日々のケアの取り組みの様子等を見ていただきながら、具体的にご意見を聞くような機会を作ってはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長や管理者に意見・相談できる環境にあり、些細な事でも話しやすい関係性が保たれている。月次ミーティングで話し合う以外でも、毎日意見を出せる時間はある。意見した事は反映に努めている。 (外部評価) 月1回のミーティング時には、職員が意見を出し合い話し合えるよう会をすすめておられる。職員が日々気付いたことや提案、ケアについての相談等は「意見ノート」に書くようにされており、それぞれの職員が意見を書き込むようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 施設長は、毎朝現場で朝礼を行い、利用者様・職員の状況把握に努めている。職員とコミュニケーションをとるように心掛けており、職員個々の努力やモチベーションの把握に努めている。休日希望や体調不良等急な勤務変更にも柔軟に対応され、働きやすい環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設長は、職員一人ひとりのスキルアップを期待しており、すべての研修案内は回覧される。積極的に参加でき、やりがいにもつながっている。研修内容を報告書で提出し、月次ミーティングで報告する事で、振り返り学習ができ理解が深まると同時に、参加していない職員も情報を共有している。資格取得にも理解がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括主催の研修会や、地域のGH連絡会に積極的に参加し、情報交換を行いサービスの質向上に努めている。地域のGHによる行方不明者検索ネットワークを通じて、同業者との交流を広げていきたい。と考えている。研修等でネットワークを広げ情報を得ている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、御本人・御家族に見学頂き、一緒に食事やおやつを食べて頂いている。ホームでの日常生活を理解頂くと同時に、困っている事などに耳を傾け、不安軽減に努めている。見学時の情報は職員間で共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、困っている事や要望等伺い、可能な限り対応するように心掛けている。出来ない事に関しては、曖昧にせず説明を行い御理解頂くよう努めている。入居後担当になる職員がアセスメントに同席し、早期から御家族と一番近い存在になるようにしていきたい。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメント時に、御本人・御家族の思いを確認し、必要とする支援を見極めるようにしている。入居が困難な場合は、必要と思われるサービスが受けられるように情報提供したり、他施設と連絡をとり紹介している。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の意思を尊重し、出来る限り思いに沿うよう努めている。調理の下ごしらえ、掃除や洗濯物干し・たたみなど、出来る事を出来る範囲でお手伝い頂き、『一緒に』という思いを大切にしている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプラン更新時や面会時に話を伺うように心掛け、利用者様にとって、こういった生活が望ましいのか一緒に考えて頂くように努めている。面会の際に、一緒に外出されたり、散歩する方もおられる。行事に積極的に参加頂く御家族も多くなった。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 入居前交流の把握に努め、入居後も交流の継続が出来るように御家族に協力頂いている。馴染みの歯科医に通院する方もおられる。馴染みの方の御面会時には一緒に写真を撮らせて頂き、居室に貼り懐かしまれている。面会の方が、何度でも気軽に立ち寄れるような訪問しやすい環境作りを心掛けている。 (外部評価) ご家族と選挙やお墓参り、デパートに買い物に出かけるような方もある。愛用の化粧品や仏壇のお供えもの等は、利用者で買い物に出かけご本人が選んで買われたり、馴染みのものを職員が買って来られることもある。	ご家族の支援がむつかしいような利用者についても、ご本人のご希望や意向等を聞き取り、馴染みの場所や懐かしい所を訪ねてみるような取り組みをすすめてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、思いやりのある言葉を掛けたり、洗濯物たたみの分担をされたり、関わり合い支えあっている場面が多くなった。そういった関係が継続できるように支援している。トラブルが発生しそうな時には職員が間に入り、不愉快な思いが残らないように、孤立しないように支援している。問題発生時は、職員間で情報共有に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設長は、必要に応じて御本人・御家族のフォローや相談に努めている。職員も退居後継続した関係を心掛けており、施設に面会に伺ったり、退去後2ヶ月間は担当者からお便りをお送りしている。不要になった物を寄付して頂いたこともある。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様全ての希望を受け入れることは困難であるが、意向・要望には常に耳を傾け把握に努めている。希望に添えない事は、御家族に相談したり協力頂いている。思いを表出されない方には、日々の関わりの中で思いを汲み取り、本人の意向に答えられるように努めている。 (外部評価) テレビを見ながら「こんなものを食べたい」「行ってみよう」と希望される方もあるようだ。又、会話の中からご本人の思いを知ったり、時には、料理の本と一緒に見ながら、希望の献立を選んでいただくようなこともある。ご自分の居室入口の暖簾は、いくつかの中から選んでもらうようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前は、御本人・御家族に会いアセスメントに時間をかけている。御家族から生活歴や趣味・特技、これまでのサービス利用についてなど伺い、その人らしい生活が継続できるように努めている。得た情報は職員全員が把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりに日課計画表を作成し、共通のケア・個別ケアについて、スタッフ間で統一した支援を行い、個別記録・日報・申し送りから生活状況の把握に努めている。センター方式のD1・D2(出来る事・出来ない事)シートを活用し、その中で有する力の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 御本人・御家族から意見や要望を伺い、プランに反映させている。また、月次ミーティング時に、職員全員でカンファレンスを行ない、利用者様本位のプラン作成に努めている。通常3ヶ月毎に見直しているが、生活状況等に変化があれば、その都度意見交換を行ない修正している。毎月末にモニタリングを行ない、プランの振り返りを行なっている。	
			(外部評価) 「ご本人の意思を尊重」した計画の作成に努めておられる。ご家族には、利用者ご本人の日々の様子や思い等を報告し、支援のご希望をお聞きして計画に採り入れるようにされている。計画は、3ヶ月に1回の見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに沿った記録を心掛け、生活の中で、行動・言動や気づき、御家族の意見・要望など、個別に細かく記録に残している。それらをケアプランの見直しや評価に活用している。出勤時に記録物に目を通し、情報を共有することが習慣になっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 御本人・御家族の要望に応じて、出来る限り柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事にお誘い頂く機会も増え、参加を心待ちにされる利用者様もおられる。毎月1回のフラワーセラピーやアロマセラピーを楽しまれている。行方不明者捜索訓練を通し、地域の同事業所や地域資源を把握することが出来た。関わりの継続に努めたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に、御本人・御家族には入居前のかかりつけ医の継続 診療が可能である事を説明するが、入居後はホームかかりつ け医への変更を希望されている。かかりつけ医は24時間体制 で対応頂き、気軽に相談できる関係が築けている。専門外来 受診時も情報提供を行ない、受診結果の把握に努めている。	
			(外部評価) 協力医の往診は、週1回あり、利用者は2週間に1回は診て もらうようになっている。協力医は、24時間いつでも相談で きるようになっている。ご家族とかかりつけ医を受診される 方もある。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内に看護師があり、気軽に相談・指導が受けられる環 境にある。夜間でも気軽に連絡できる関係が築けている。変 化や異常があった場合は、看護師に相談し必要に応じ主治医 に連絡を取っている。かかりつけ医の看護師にも相談し易い 関係が出来ている。	
			(外部評価) 安心して治療が受けられるように、生活状況など情報提供書 を作成し病院関係者に手渡している。入院中は、施設長をは じめ職員が見舞いに行き、病院関係者から直接話を聞き回復 状況の把握に努めている。御家族とも連絡を取り、適宜相談 に乗っている。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 安心して治療が受けられるように、生活状況など情報提供書 を作成し病院関係者に手渡している。入院中は、施設長をは じめ職員が見舞いに行き、病院関係者から直接話を聞き回復 状況の把握に努めている。御家族とも連絡を取り、適宜相談 に乗っている。	
			(外部評価) 契約時に、重度化や急変時の方針について、出来ない事等も 説明し御理解頂いている。入居後、状態の変化に応じその都 度、かかりつけ医・御家族と話し合い方向性を検討してい る。話し合いの内容は職員間で情報を共有し、御家族の希望 が少しでも反映できるよう支援している。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、重度化や急変時の方針について、出来ない事等も 説明し御理解頂いている。入居後、状態の変化に応じその都 度、かかりつけ医・御家族と話し合い方向性を検討してい る。話し合いの内容は職員間で情報を共有し、御家族の希望 が少しでも反映できるよう支援している。	
			(外部評価) 現在は、事業所では看取り支援は行っていない。利用者・ご 家族には、入居契約時にその旨を説明をされている。管理者 は、看取り支援を実際に行っている他施設に見学に行かれた が、看とりに対して職員の不安もあり、事業所での支援は行 わないことにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを作成している。心肺蘇生訓練用人形を購入し、看護師が中心となり全職員で蘇生法の勉強会を定期的に行なっている。月次ミーティングで、看護師から初期対応や応急処置などの勉強会を行ない、いざという時に少しでも落ち着いて対応出来るように取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の通報訓練・消火訓練・避難訓練が定着しており、夜間を想定しての避難訓練を利用者様と共に行なっている。今後、近隣の方々にまずは訓練の見学に来て頂き、協力体制を築いていきたい。地域の防災訓練に利用者様と共に参加することが出来た。物資供給避難場所への経路や危険場所など把握する必要がある。 (外部評価) 5月に消防署の方立ち合いのもと、夜間想定で職員一人体制時の避難訓練を行われた。消防署の方からは「近所の方との協力体制が大切」とアドバイスをいただいた。地域の防災訓練には、利用者とともに参加された。今年、スプリンクラーも設置された。地域の「防災地図」も事業所内に貼って、職員が確認されている。管理者とユニットリーダーは、「避難所まで実際に歩いて確認」することを予定されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ユニットの年間目標を『言葉遣いに気を付ける』とし、言葉掛けや対応について問題があった時は、その場で注意しあえる関係作りに努めている。月次ミーティングで話し合い職員一人ひとりの意識が高まるように取り組んでいる。トイレなどの対応は、自尊心を傷つけないようにさりげない誘導を心掛けている。 (外部評価) 職員が利用者の居室に入室する際には、必ず、ご本人に声をかけ、又、食後に薬を手渡しする際にも、ご本人確認をはっきりとご本人に分かるような言葉で伝えておられた。排泄チェック表にはカバーを付けて、他の方の目に触れないように配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、自己決定できる場面が少しでも多くなるように努めている。自己決定が難しい方に関しては、選択肢を作り自分で選んで頂くように心掛けている。訪問販売パン屋さんが来られた時は、全員がたくさんのパンの中から自分で選ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 午前中の日課はある程度決まっているが、その中で希望に出来る限り沿えるよう、無理強いせず御本人の気持ちを尊重している。午後は、思い思いにのんびり生活されている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝鏡の前で整容して頂いている。丁寧に化粧をする方やイヤリングなど装飾品を楽しむ方もおられる。訪問美容師に、好みの髪型を注文されたり毛染めをされており、変化に気付き、声を掛けるように心掛けている。パジャマや衣服は出来る限り自分で選んで頂くように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を取り入れるようにしている。希望がかたよらないように、日曜日の昼食は順番に希望を叶える日とし、『来週は私の番』『次はこれを作ってもらおう』など楽しみにされる方も多い。献立ボードを作成し、楽しみに見る方もおられる。テーブル拭きや下膳は利用者様全員の日課となっており、片付け(食器拭き)が日課の方もおられる。 (外部評価) 事業所の食事は、週3回は、業者で決まったメニューの食材が届くようになってきている。その他の日は、職員がそのメニュー表を参考にして、利用者と一緒に買い物に出かけ調理されている。ゴーヤやきゅうり等、事業所でできた野菜が食卓に上ることも多いようだ。毎週日曜日は、利用者個々に好みをお聞きしてメニューを決めておられ、利用者は、とても楽しみにされている。調査訪問時、ほとんどの利用者様が自分のお膳を下げておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週3回は管理栄養士がカロリー計算した宅配食材を利用し、週4回はそのメニューを参考に、希望を取り入れたメニューを心掛けている。体重の増減や体調の変化にあわせ御本人・御家族に相談の上、食事量の調整や形態変更等の対応をしている。カルシウムを多く含む食材などの勉強会を行い、食材選びに活かしている。定期的に水分補給の時間を設け、十分な水分量は確保出来ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事前に口腔体操を利用者様全員で行っている。毎食後、口腔ケアの声掛けを行い習慣となっている方も多い。介助を要する方は、出来る限り自分で磨いて頂き、仕上げをお手伝いしている。週1回義歯洗浄剤を使用している。必要に応じ歯科医の往診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや排泄状態の把握に努めている。失敗が無いように、表情や言動・行動の変化に注意を払い、さりげない声掛けを行うようにしている。	
			(外部評価)	
			現在、ほとんどの利用者は、日中はトイレで排泄されており、ご自分で行かれる方や職員がそっと声かけして、トイレにお誘いする方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			乳製品は毎日摂って頂き、食物繊維を多く含む食材を使用するように心掛けている。水分もしっかり摂って頂いている。日課の体操や散歩で身体を動かして頂く事も便秘防止に役立っている。決まった時間にトイレに座る事で、自然排便があり下剤が必要なくなった方もおられる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			基本の曜日・入浴時間は施設で決めている。その中で、御本人の体調や希望に可能な範囲で対応し、気持ちよく入浴して頂くよう努めている。	
			(外部評価)	
			週3回は入浴できるように支援されている。日中で、ご希望の時間に入浴できるように支援されている。ご自分の好みのシャンプーを準備されている方もあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中も自由に居室に出入りされ、休息をとっておられる。自己主張が出来ない方や自分で移動が困難な方は、御本人の意向を確認し休んで頂いている。不眠時は原因を探り、気持ちよく眠れるように支援している。不眠が継続する方は、御家族に相談の上かかりつけ医に処方依頼している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方薬の作用・副作用の把握に努めている。服薬時には、日付・名前・何食後薬かを声に出して確認し、誤薬などの事故防止に努めている。内服薬の変更があった場合には、個別記録・日報に目立つように赤字で記載し情報共有に努めている。また、服薬変更後は、症状の変化等に注意を払っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除・洗濯物量・食器拭きなど楽しみにしておられる方も多い。洗濯物が乾けば、一気に4～5名の方が手伝いに駆けつけて下さる。庭に植えている、苺・トマトやゴーヤの成長を楽しみにされ、手入れと一緒に収穫を心待ちにされている。カラオケを楽しまれたり、居室内で編み物を熱心にされる方もおられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日ほぼ全員の方が散歩に出掛けられており、気分転換にもなっている。最低月1回は外出・外出に出掛け季節の花見、イチゴ狩りや釣堀など楽しまれている。御家族の協力を得て、外出や墓参りに出掛ける方もおられる。一人一人の希望に沿った外出支援は出来ていないが、出来る限り柔軟に対応している。 (外部評価) ほとんど毎日、午前中は近隣の公園まで等、散歩されている。車いすを利用されている方も「外気に触れる機会を作る」ことに努めておられ、一緒に散歩に出かけておられる。毎月、外出計画を立て、お花見、イチゴ狩り等、季節を感じることができるような外出を楽しまれている。皆で椿祭りに出かけた際には「懐かしい」と喜ばれる利用者もあったようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に御本人・御家族の意向を確認している。2人の方がお小遣い程度の現金管理されており、外出時や買物時に好みの食べ物や仏壇のお供え物など購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している方もおられ、自由に連絡を取っておられる。電話希望の方は、いつでも電話できるように支援している。職員が御家族に連絡する時は、御本人と電話を代わり話をして頂くように心掛けています。娘様や御孫様に絵手紙を送る方や、馴染みの人に年賀状を送る方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先には、季節の花々が咲き、リビング窓からみて楽しまれている。リビングテーブルには、庭に咲いた花や散歩の際摘んできた草花が活けてある。一年を通し小まめに換気を行うと同時に、加湿器により湿度調節も行い快適な空間作りに努めている。レースカーテンを遮光効果のある物に変更した。テレビや音楽の音量等も配慮している。リビングには外出時の写真を掲示し、眺めて楽しんでいる。	
			(外部評価) 玄関先には、大きなプランターからゴーヤがつるを伸ばし、たくさん実をつけていた。利用者が水やり等をされている。居間には七夕飾りがあり、テーブルには庭の花を生けておられた。居間は、道路沿いであるがペアガラスで車の往来の音も気にならなかった。季節に応じて加湿器も使用されている。調査訪問時には、ボランティアのアロマセラピーの先生が来られており、利用者個々にフットマッサージをされていた。利用者はたいへん喜ばれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座り話しながらテレビをご覧になったり、テーブル席で過ごしたり思い思いにくつろいでおられる。裏口の椅子に座りゆっくり外を眺める方もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込まれたり、フラワーセラピーで作った作品や花、友人・御家族と写った写真など思い思いに飾り、居心地のいい空間になっている。御本人でされない方は職員が希望を伺いながら一緒に行っている。仏壇を置いている方や、亡くなった御主人の写真を置きお茶を供える方もおられる。タンス等には耐震対策が施されている。	
			(外部評価) 各居室のボードには、ボランティアで来てくださっているフラワーアレンジメントで作ったお花が飾られていた。ご家族の写真や職員の結婚式の写真を大切に飾っておられる方もあった。ご自宅から椅子を持って来られている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室前に表札を揚げ、違う模様の暖簾を下げ自分の居室がわかり易いようにしている。トイレは見えやすい位置に目印を表示している。玄関・トイレ・廊下・浴室には手摺りが設置され、自立支援につなげている。歩行の妨げになるような物は置かないようにしている。	